

# 我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立皇子山中学校

◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、  
**○調査目的** 教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。  
 ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

## 【結果について】

### 《概要》

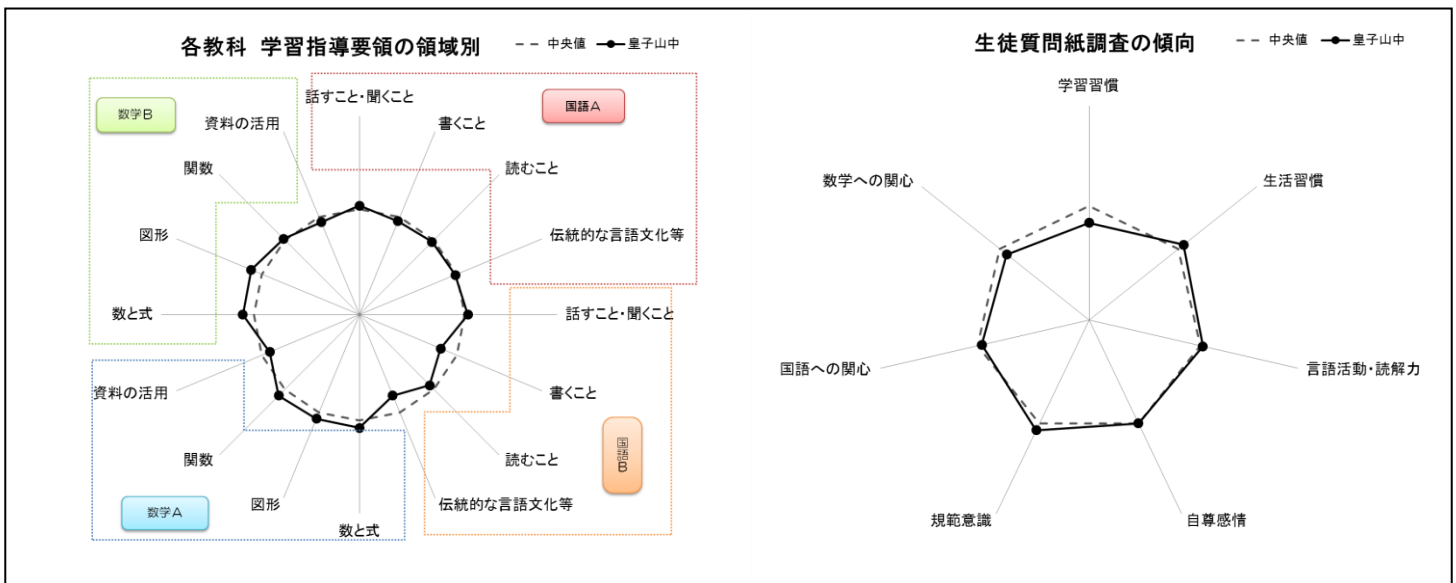
国語Aについては、基本的な漢字の読み書きは定着していますが、「書くこと」が全国平均に比べやや弱い傾向にあります。**とりわけ記述部分では無解答が目立つなど気になる部分があります。**国語Bについても同様であり、自分の考えをまとめることや要約の仕方についての課題があります。

数学Aの数学的な技能に関しては、全国平均より高い数値です。これは家庭学習用に毎時間配布する計算中心のプリント学習の成果が出ています。資料の整理については、ことばの意味を正しくとらえられていない傾向が見られました。数学Bについては、全国平均を上回ったものの、記述問題については弱さがあり、理解を深める工夫が必要です。

生徒質問紙については、学校の宿題や復習がしっかりできていない**点**と、授業を**しっかり受け、定着を図っていく**中で表現力が乏しいところが課題**といえます。**

本校では5年間「学び合い学習＝協同的な学び」を推進してきました。生徒質問紙の調査結果からは、生徒同士の学び合い、話し合いによる学習の進め方には一定の成果が出ています。しかし、それが意欲的で主体的な学びにつながっているか、深い学びとなっているかという点、依然、課題が残っています。学習規律・規範意識の向上に伴い、大多数の生徒が教科担当と適度な距離感の中で、前向きに授業に臨もうとしているため、学習形態にとらわれることなく、生徒の実情に沿った主体的に深い学びを工夫し、追求していくことを目指します。とりわけ、1・2年で学んだ授業内容や家庭学習について、学習内容の振り返りやめあてを持って課題解決に向かう姿勢が弱い結果となっているため、今後、1、2年生から生徒にわかりやすい系統立てた学習活動を推進するとともに、学習内容の定着に向けて、生徒が主体的に学ぶ補充学習のあり方など、家庭学習を含め、取り組み方法を明確に指導し学力向上を図ります。

◇強み・弱みレーダーチャート◇ ※本校の傾向を見るためのものであり、学校ごとに基準が異なるため、他校と比較できるものではありません。



※グラフは全国平均正答率と本校平均正答率のポイント差に基づいて作成しました。破線はポイント差の中央値を表しています。破線より外側の場合は強み（成果が現れている項目）、内側の場合は弱み（改善を検討する項目）と捉えることができます。

## 【指導の充実に向けて】

本校では、今年度『**伝え合う力（聴く力・考える力・表す力）の育成**』に力を入れています。いろいろな場面で「**聴く**」ことには大きな改善がみられます。しかし、**聴いて考える・書くこと**については、調査結果からも本校生徒の課題がみとれます。

その中で下半期は「**書くこと**」についての指導を重点に改善を図ります。まずは、**聴いて→考えて・書いて→そして、伝える、つまり「考える力」「表す力」を育てる指導充実のため、教員相互の授業研究で指導力向上を図る一方、学校運営協議会を中心に地域においても生徒への働きかけを強化していただきます。**加えて家庭学習については、**具体的な指導で自発的な学習習慣の定着を目指します。**